

リーディングDXスクール事業【実践事例】

世田谷区立中丸小学校

【取組内容】保護者向け文書作成

【成果】

紙で配布していたものを保護者向け連絡システムにより、配信することで手間が少なくなり、時間を有効活用ができるようになった。

【取組】

学級だよりなど、保護者通知文や行事の実施要項など、クラウドシステムで共有して編集、供覧した。

①学校だよりなどを保護者向け連絡システムで配信した。

②学級だよりなど一部紙での配布を引き続き可能にし、教員が選択できるようにした。

【教職員の変容】

①手間がなくなることで時間を有効活用できるようになった

配信ができるようになったことで、「印刷」をするという手間がなくなり、その分を別の仕事の時間に充てることができるようになった。以前は、印刷をするために順番を待つこともあったが、今では時間をかけるべきところにかけられるようになった。

②紙やインクの使用を減らし、別の場所に予算を使えるようになった

「印刷」することがなくなったことで、紙やインクなどの資源も使う頻度が少なくなった。その分の学校予算を別に使うことができるため、学校環境整備に充てることができるようになった。

③配信と配布を使い分けることで、伝えたい人に確実に情報が伝わるようになった

配信することは「選択肢の1つ」であり、配布をすることもある。学級だよりに次週の予定を載せているときは、配信とともに、配布もすることで保護者にも児童にも情報を伝えることができるようになった。